大沼生産組合（おおぬませいさんくみあい） 組合長 金安（かねやす） 秀雄（ひでお）（新潟県長岡市）

北陸農政局長賞（単位収量の部）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差（地域の平均単収）
新潟次郎	約21.4ha	652kg/10a	151kg/10a（501kg/10a※）

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

○生産組合（構成員20名、オペレーター10名）

○平成3年に生産組合を設立。

○経営面積：56.5ha

【作付品目】

○主食用米

コシヒカリ　26ha、みずほの輝き　6.8ha

新大正糯　1.4ha、こがねもち　0.9ha

○飼料用米　新潟次郎　21.4ha

新潟県

【取組のきっかけ】

○当初、大豆栽培の労力過多を背景に、バイオ米の栽培を行ったものの、バイオ米への産地交付金の支援がなくなったため取りやめた。その後、平成27年産から作期分散のため、飼料用米の早生品種「新潟次郎」の栽培を開始した。

【多収のポイント】

○代掻き前に、基肥として早生スーパー元肥パワフル30（40kg/10a）をブロードキャスターにより、散布するとともに、田植え時に側条施肥（20kg/10a）を施用し、肥料切れを防止。（土づくりとして、ケイ酸カリを施用。）

○投げ込み方式の除草剤（アシュラ：ジャンボ剤）を使用することにより、散布の省力化及びコスト低減を図るとともに、雑草による肥料ロスを防止することにより、単収を確保。

○収穫量計量機能付きのコンバインを導入し、圃場ごとの収穫量を把握し、翌年の施肥設計を行い単収増及びコスト削減。

【コスト削減等のポイント】

○育苗は、厚播き（通常150g/1箱のところ、200g/1箱）を行うとともに、苗の植付密度を50株/1坪（通常60株）の疎植にし、田植え、育苗の省力化、運搬費のコスト低減を図っている。

○コンバインから乾燥施設への運搬を、ホッパーから軽トラのダンプへの積み込み（バラ積み）に変更し、乾燥機の投入口に直接投入することにより、積み下ろしの労力の低減を図るとともに、調製後はフレコン出荷によりコスト削減を実現。

○機械の整備・点検・修理を、基本的に組合で実施し、コスト低減を実現。